JMSCA 登山月報 第616号 令和２年７月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

登山月報

アタックキャンプ（7,000m）眼下に見えるのはノース・テロン氷河

東京2020オリンピックに向けて …… 2
第140回 Mountain World …… 5
新連載 Enjoy Climbing …… 6
スポーツクライミングの変遷…… 7
世界選手権（1991年～2019年）…… 9
新刊図書紹介…… 12
ＪＭＳＣＡ、寄贈図書、表紙のことば、編集後記 …… 12

No.616

東京2020オリンピックに向けて

オリンピズムとコロナ

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、私たちは非常に不確かな中で生活しています。現時点では、この不確実な状況の収束には程遠く、コロナウイルスが世界に及ぼす甚大な影響について徐々に理解し始めたにすぎません。確かなのは、この感染症の爆発的な拡大が私たちスポーツ界をはじめ、あらゆる社会の領域に甚大な影響を与え、またこれからも与えるだろうということです。

ウイルスの世界的な広がりにより、東京2020オリンピック競技大会は2021年に延期されました。これは、アスリートや大会に関わる何十万もの人々の健康を守るためになされた歴史的な決断でした。

ＩＯＣ理事会は、日本のパートナーや友人とともに延期を決めましたが、その決定に対して一人一人から強いサポートをいただいたことに、心から感謝の意を表します。私たちが直面している困難な状況下、この決定への幅広く、包括的なサポートを得られるかどうかは予断を許さないことでした。そのため、206すべての国内オリンピック委員会、すべてのオリンピック夏季競技団体連合、加えてＩＯＣアスリート専門委員会、大陸アスリート専門委員会から歴史的な延期決定への支持を得られたことは、今までに例のない状況下においてオリンピック・ムーブメントの結束を強く示すことができました。

コロナウイルス危機管理

私たちは現在、これまでに経験をしたことのない別な難題―延期されたオリンピック競技大会の開催―を抱えています。長いオリンピック史上初めてのことであり、ＩＯＣにとっても日本のパートナーや友人、オリンピック・コミュニティの全員にとって非常に大きな課題です。

この新たな状況に必要なのは、連帯、創造力、決断力と柔軟性です。私たち全員が犠牲を払うこと、また互いに歩み寄る決意が必要です。異例の事態には異例の方策が求められます。こうしたなか、ＩＯＣをはじめとする各関係者がそれぞれの役割を果たさなくてはなりません。ＩＯＣとしては、日本側のパートナーや友人との間で交わした2020大会の既存の契約書の条件に基づき、運営面におけるＩＯＣの責任を果たし、延期された大会の費用を分担することを明らかにしています。現段階ではっきりとした数字を示すのは時期尚早ですが、延期による費用の数億米ドルを負担すべきと認識しています。このようなことから、延期に対して提供する内容の精査と検討をしなくてはなりません。

この危機により影響を受けるオリンピック・コミュニティに対する支援については、すでにアスリート、ＮＯＣ、ＩＦ、また商業パートナーやスポンサーとの間で有意義な話し合いをしております。当面の措置として、大会に向けた準備のため、私たちはＮＯＣに対するオリンピック補助金の供与をすでに延長しています。この補助は、世界の1600名のオリンピック・スカラシップ対象アスリートとＩＯＣ難民チームにも支給されます。

共同タスクフォースは、“Here we Go”のシンボルネームを掲げて非常に専門的なやり方をもって全力で作業を進めています。タスクフォースは、延期されたオリンピック競技大会実施の実現、そして成功させるための優先事項と管理戦略を定めました。優先される最重要事項は、なにより全参加者の健康のための安全な環境づくりです。大勢が密集する際の潜在的な適応事項については、今後も世界保健機関（ＷＨＯ）の助言を受けます。開催可能性に関して、ＩＯＣは共同タスクフォースに対して経費節約策の一覧をすでに示しました。

この計画を推進することで、延期された東京2020オリンピック競技大会の開催を人類結束の祭典とし、コロナウイルスによる危機を克服する人間のレジリエンス（復活の力）の象徴とする機会を得るのです。かつてない時代に遭遇している今、オリンピック競技大会の開催は世界にとってどれほど強い希望のメッセージとなることでしょう。オリンピック聖火は、今まさに私たち人類が置かれている真っ暗なトンネルの出口の光になるのです。

コロナ後の世界

コロナ後（ポスト・コロナウイルス）の世界がどのような様相を呈するのか、現時点では誰にもわかりません。確かなのは、この危機の発生前に計画していたような大会等を実施し続けられないということです。誰もが自身の活動範囲を注意深く見直して、必要に応じて新たな現実に適応していくことが必要です。その観点から、ＩＯＣ事務局では、ＩＯＣ予算と優先順位の見直しを開始しています。その報告は近いうちにＩＯＣ理事会に提出され、議論と承認が行われます。

オリンピックハウスの壁にも記されている、オリンピック・アジェンダ2020を導入した際のモットー は“Change or be changed（自ら変わるか、変えられてしまうか）”でした。今ほど実際的な意味のある言葉はありません。状況は課題が多く、困難に見えるかもしれませんが、私たちがここから正しい教訓を導き出せるなら、世界のオリンピック・ムーブメントの妥当性を確固たる

ものにするための未来を創ることができます。したがって、私たちはオリンピック・アジェンダ2020の改革―とりわけこの危機に対応するための持続可能性―を強く推進すべきです。

その目標に向けて、私たちは責任ある組織として、この危機後の世界の未来をしっかりと検討しなくてはなりません。歴史的にみて、コロナウイルスの爆発的な感染拡大のような重大な危機すなわち社会全体が受ける衝撃は、広範囲にわたって深く影響を与えることがわかっています。私たちは、コロナ後の世界のスポーツ、オリンピックの価値そしてオリンピック競技大会がどのように状況に置かれるのか、想像しなくてはなりません。

現段階では、コロナ後の世界の姿を真の意味で予測できる人はいません。しかし、準備を整えようと思うなら、さらに先を見越す努力が必要です。その討議のために、私からいくつか考えるべき材料をお示しします。大きく3つのシナリオが考えられます。もちろんそれ以外のシナリオもあるでしょうし、シナリオ通りの形で現実になることはないでしょう。またそれぞれの国、地域、文化的な背景によって異なることも心に留めておいてください。

第一のシナリオは、社会は危機以前とほとんど変わらず継続しようとするというものです。このシナリオの場合、現在の危機は、すでに存在する社会的・経済的不平等を増幅することはほぼ間違いありません。この危機の中で、極めて多くの社会で、多くの不平等や非効率的な状況がすでにあらわになっています。

過去のデータに基づいたコンピュータのアルゴリズムをうのみにしたのでは、危機に打ち勝つことはできないでしょう。このことは2008年の世界金融危機（リーマンショック）からもわかっています。今回の危機はこれまでとは異なるものです。克服するには、人間のエクセレンス、経験、創造力を必要とします。

二番目のシナリオは、利己主義や自己の利益によって動かされる社会や国家によって特徴づけられます。このシナリオは、さらなる社会の分断化、さらなる不平等を招き、その結果、あらゆる社会的リスクを政治体制にもたらすでしょう。国際関係の悪化、保護主義の台頭、政治的対立の激化が進み、人間の生活のあらゆる場面で影響が表れます。政治的な対立があると、経済、スポーツ、文化、人道的援助は、政治利用のツールとなりかねません。

三番目のシナリオの主な特徴は、より強化された連帯と国際協力です。つまり、技術のみを頼りにしているのでは、私たちは世界の未来像を予測したり形成したりすることはできないこと、また個人、政府、国家のいずれも単独では人類の大問題を解決できないことを理解していることが前提です。これにより、危機がもたらす困難を人々も国家も公正なやり方で共有しようと努力し、公平で協力的な世界秩序を強化するでしょう。

これらのシナリオのどの要素が支配的になっても、いずれもスポーツや社会全体に根本的な影響を与えます。あらゆる多様性の中で平和、連帯、尊重、結束というオリンピックの価値で団結することで、私たちはコロナ後の世界に重要な貢献ができます。それができるだけの強い基盤が私たちにはあります。オリンピック・アジェンダ2020の多くの改革のおかげで、私たちは長期にわたる安定性を享受しています。このことは、東京2020オリンピック競技大会の延期によるコストの分担だけでなく、同時にアスリートやオリンピック・ステークホルダーの支援も行うことができます。しかし、そのことに自己満足をするわけにはいきません。コロナ後の世界は、さらなる難題、とりわけ社会的、経済的、政治的な課題を突き付けるでしょう。したがって、私たちはオリンピック・アジェンダ2020を推進し、適応させなければなりません。

社会的影響

コロナ後の社会では、公衆衛生がはるかに重要な役割を果たすようになると考えられます。スポーツと運動は、健康に大いに寄与します。非伝染性疾患に関しては、WHOによる研究がすでに驚くべき結果をもってこのことを証明していますが、コロナ危機は、伝染性疾患の克服にも全体的な健康状態の良さがいかに役立つかを私たちに教えています。したがって、スポーツと運動は健康な社会を作るための最もコストのかからない手段と言えるでしょう。この点をより明確にするためにも、IOCはまもなく、WHOと新たな覚書を締結しようとしています。

包摂と統合にとってのスポーツの重要性も強調することができます。時には、スポーツが社会的、政治的、宗教的あるいは文化的背景に関係なく人々を団結させる唯一の活動となることもあります。スポーツは、社会を一つに結び付ける接着剤の役割を果たします。そのような包摂は、もともと深く分断されている社会において、いっそう重要となります。

また、ソーシャル・ディスタンシングが私たちとeスポーツとの関わりにどのような意味を持つかも考えなければならなくなるでしょう。オリンピックの価値に関する「越えてはならない一線」を尊重することによって私たちの原則を維持しつつも、関係者の皆さまには、より早急に「その競技の電子的かつバーチャルな形態をどのように統括するかを検討し、ゲームメーカーと協力する

機会を模索する」（第８回オリンピック・サミット宣言、2019年12月７日付）ことに取り組んでいただきたいと思います。一部のＩＦはすでに、リモート競技会を開催するなど、非常に創造的な取り組みを行っています。私たちは、こうした動きをさらに強化すべきであり、共同作業部会にこの新たな挑戦と機会に対処するよう求めています。

経済的影響

現在の健康危機が長期にわたる深刻な経済危機につながることは疑いようがありませんが、スポーツへのその影響は国によって異なると思われます。これは、政府が経済回復のための財政支援の配分にあたり、スポーツがもたらす大きな社会関係資本にどれほど重きを置くかに大きく左右されるでしょう。したがって、私たちは各国政府に、国民の健康へのスポーツの多大な貢献、包摂や社会生活、文化にとってのその重要性、そして国の経済のために果たしている重要な役割を正しく評価し、尊重するよう強く求めるべきです。

たとえば欧州では、最近の研究により、スポーツがＧＤＰに２％以上寄与しており、その結果、数多くの伝統的な経済セクターよりも経済的に重要な存在であることが明らかになりました。また、同じ研究で、欧州の雇用の３％近くがスポーツ関連であることも明らかにされました。つまりスポーツは、多くの雇用を生み出しているのです。

他の多くの研究同様、この研究は、スポーツが有益な社会的役割だけでなく、危機からの世界の回復を助ける経済的役割も果たせることを示しています。私たちは、問題の当事者ではありません。解決策の当事者となることができるのです。そのためには、各国政府が経済支援計画にスポーツを盛り込まなければなりません。

ただし、ほとんどのスポーツイベントに関しては、社会の他の分野同様、以前と同じようにはならないでしょう。それゆえにＩＯＣは、オリンピック競技大会の組織委員会がさらなる経費削減を図ることを可能にするための「ニューノーム（新規範）」の新たなフェーズによって、「オリンピック・アジェンダ2020」の持続可能性と実行可能性の改革をさらに強化する必要があります。これらの新たな取り組みにより、すべての関係者にとってオリンピック競技大会における負荷のさらなる削減が可能になるはずです。

ＩＯＣはまた、気候変動に対する対応を加速できるかどうか、どのように加速できるかを検討する予定です。組織としてのＩＯＣはすでに、「カーボン・ニュートラル」（温室効果ガスの排出量と削減量がプラスマイナスゼロになる状態）を達成しており、2020年オリンピック東京大会もその見込みです。次は、どちらについても、国際社会が気候に関する目標の達成を目指す2030年より前に「クライメート・ポジティブ」（温室効果ガスの削減量が排出量を上回る状態）の達成を目指すことが私たちの新たな目標として考えられます。

オリンピック・ムーブメント全体については、前回のオリンピック・サミットですでに取り上げたように、スポーツイベントが急増している現状をさらに詳しく検討する必要があるかもしれません。ＮＯＣ、ＩＦ、組織委員会をはじめ、あらゆる関係者の財政が圧迫されていることから、この点についてはもっと統合が必要となる可能性があります。

政治的影響

少なくとも世界の一部地域においては、ナショナリズムと保護主義が強まり、その結果として政治的対立が強まるかもしれません。そのような場面においてこそ、連帯、平和、相互の尊重、そして世界的な競技規則の尊重という、私たちのオリンピック価値を強調する必要があります。連帯の中に生き、連帯を強めることによって、私たちは互いを尊重する国際協力が孤立主義よりも、優れた公正な結果を生むことを示すことができます。

オリンピック競技大会が国際社会全体によって「多様性の中での人類の結束」を示すものとして支持され、いかなる差別もない、あらゆる人々にとっての架け橋となるよう、ひいては、他に類を見ないスポーツイベントであり文化的・社会的イベントであるオリンピック競技大会が政治的その他の対立的な考えに影響されることのないよう、私たちみながあらゆる努力を尽くさなければなりません。

進むべき道

私は、ここで述べたことが総合的なディスカッションの役に立つことを願っています。そこで、「オリンピック・アジェンダ2020」の時のように、ＩＯＣ理事会とＩＯＣ総会の主導の下で私たち全員が幅広く協議することを提案します。私たちにオリンピック競技大会をもたらした古代ギリシャ人は、危機とともに必ず機会もやってくることを知っていました。団結して創造的にこの機会を捉えることで、以前よりもさらに強くなってこの危機から立ち上がりましょう。コロナ後の世界はスポーツを必要としており、私たちはオリンピック価値によってその世界の形成に貢献する準備ができています。

ローザンヌにて、2020年４月29日

（ＩＯＣ会長　トーマス・バッハ）

第140回 Mountain World

夏のパキスタン登山もコロナで中止

池田常道

ＷＨＯ（世界保健機関）が遅まきながらパンデミックと認めざるを得なかったように、世界中に拡大した新型コロナウイルス禍は春のヒマラヤ登山シーズンを直撃した。

ネパールとインドが全面登山禁止となる一方、中国は自国の１隊のみエヴェレスト登山を許容（前号参照）したが、多くの登山・トレッキング隊がわずかな期待をかけていた夏のカラコルムシーズンも実質不可能になった。

昨年末の中国に始まったウイルスの蔓延は、その後ヨーロッパや北米に飛び火し、南米やアフリカ、南アジア諸国に広がった。パキスタンでも26万1625人感染し、７月13日時点で5266人が犠牲になっている。

今夏のパキスタンの山々ではＫ２、ブロード・ピーク、ナンガ・パルバットなど人気の8000ｍ峰を中心として25隊以上が許可を得ており、例年なら６月中には踵を接するように入国してくるところだが、その気配はみられない。当局が規制しているというより、危険を察した登山隊のほうが計画を自粛したかたちだ。

パキスタンは昨年、21万3000ユーロ（約2607万円）の登山料収入を得た。カラコルム登山の振興を目的として40％のディスカウントを実施してきたこともあって、ネパールのそれに比べれば割安だが、登山隊が落とす諸費用を考えれば、重要な収入源であることに変わりない。

バルチスタンのアドヴェンチャーツアー協会は秋のシーズンに備えて、登山者と地元住民の接触をできるだけ少なくしようと、８か条から成るガイドラインを公表していたが、コロナ流行地だという懸念を払拭するには不充分だったようだ。日本でも、パキスタンから帰った人から家族などに感染が広まった例が複数明らかになっている。

イムラン・ハーン首相が期待をかけた「制御された山岳ツーリズム」を実施するには、決断が遅かったと言えるだろう。

この夏に仕事を失うことになるガイドやコック、ポーターのためにミルザ・アリ（36）は、妹のサミナ・ベグと共にgofundmeでクラウドファンディング（Support the Porters living in Mountains, Pakistan）キャンペーンを開始している。被害を受けることになる約700家族に対して、この先半年分（とくに冬季）の食糧を賄うための資金を募ろうというものだ。目標額は７万ドルだという。

＊

春のシーズンを失ったネパールはどうなるのか。登山者の間では「秋になれば……」という期待が大きいが、マナスルとダウラギリに公募隊を派遣する予定のミンマ・ギャルジェ（イマジン・ネパール）は募集も順調に行っていたが、観光省当局から外国人の入・出国にはウイルス検査とそれぞれ２週間の隔離期間を設けるよう言われたという。合わせて28日間の隔離が必要となっては、十分な登山期間を設けることは不可能で、公募隊自体が成立しない。

観光省は同時に

①１隊の人数は15人までとする
②ホテルの部屋はチェックアウト後に清掃・消毒を施したうえ、48時間経過するまで再使用させない

などのガイドラインを示している。ただし、公募隊エージェントに配られた文書では、隔離期間について「必要となれば」という但し書きが添えられているという。

また、ネパール山岳協会によると、観光省は７月第２週からガイド、シェルパ、ポーターなど200～300人動員して山道の補修と清掃に当たらせることにしたという。

なお、国際便とネパール国内の航空便は８月初めから解禁されると観光省が述べたともいう。

ミルザ・アリ（左）とサミナ・ベグ
アリのフェイスブックより

新連載④

Enjoy Climbing

ミネラルキャニオン開拓記　その4

横山勝丘

11月下旬、冬はもう目の前だ。夜明け前、寝袋から出るのに躊躇しつつも意を決して起き上がり、簡単な朝食を摂る。準備を整えてピックアップトラックに乗り込む頃に、陽は地平線の向こう側から昇り始める。ダートの道に揺られること一時間、事故を起こさないように慎重にキャニオンの奥深くに入り込んでゆく。皆それぞれが、今から待ち受ける奮闘的な時間に闘志をみなぎらせる。

定位置となった路肩に車を停めて歩き始める。バットレスに続く岩屑の転がる斜面を登る頃には、額は汗で滲みはじめる。岩壁の基部に着いたら、すぐに各自のルーティンが始まる。おもむろにラジオ体操を始める者、アップ代わりにフィックスロープを登り始める者、カメラマンの佐藤はカメラのセッティング。あとは黙々と各自のタスクをこなすのみ。下手すれば掃除に夢中になって日が暮れるまで一度も地面に降り立たないなんてこともある。

作業を終えるのは、だいたい夕方5時過ぎ。なんとなく周りの行動を見ておもむろに集まってくるといった具合なのだけど、きまって誰か一人がそんな空気も読まずに、そのタイミングで「もう一本」と言って登り始める。ようやく四人が揃って降り始める頃には、ヘッドランプの出番。足取りは重く、岩屑の斜面に何度も足を取られる。再び神経をすり減らされるドライブをこなしてベースキャンプに戻る。

ツアー前半は外に置かれたピクニックテーブルで夕飯を摂っていたのだが、あまりの寒さにひるみ、途中からは僕の大きなテントに全員が集合することになった。疲れ果てて夕飯を作るのが面倒に思う場面も多いけれど、しっかり食べなければ翌日動くことができないのは明らかだったので、疲れていても頑張ってご飯を食べた。

数日周期で降雪があり、レストを強いられる日も多かった。降水そのものだけが問題なのではない。降水量が多ければ、キャニオンに向かう道のスイッチバックは泥でぬかるみ、通行は自殺行為となる。僕たちの身体や岩の状態ではなく、道路の状況に行動を制限されるのはストレスだ。とあるレストの日、この不自由を解決すべく新たなアプローチ開拓に出かけた。

ロープにぶら下がる日々。右に横山、左に倉上と加藤

キャニオンは東西10キロにわたって延び、僕たちの開拓するバットレスは北側の壁だ。普通はキャニオンの南の台地に引かれた道を西端まで行き、そこからスイッチバックをキャニオンの底に向かう。キャニオンの北の台地にも道が一本あるのだけれど、ここからキャニオンの底に向かう道は存在しない。ただ、この道のどこかに車を停めて、どこかの方向に向かっていけば、目当てのバットレスの頂上落ち口にぶち当たるはずである。

その日は、まず対岸からバットレスを観察し、大雑把に描かれた地図に大まかなポイントを落とし、歩き始めのポイント、ならびに向かう方角の目星をつけた。それから北側の道を車で進み（これもアドベンチャラスな道であったが）、目星をつけたポイントから決めた方角に向かって直進するという古典的な方法で目的地を目指す。ようやく岩壁の落ち口にたどり着いても、おそるおそる下を見るとまるで違った場所にいる。そんなことを繰り返し、その日の夕刻になってようやく僕たちは目当てのバットレスの頂上にたどり着くことができた。最終的には、道路から30分でこのポイントまで到達可能なこともわかった。これでドライブと合わせて片道1時間以上の時間節約が可能となったし、どんなに降水があって道路がぬかるんでいても、岩場に向かうことができるようになった。ただ登るだけの行為ではない、こういった作業にもまた喜びが存在する。

早速、翌日はこの新しいアクセスを使用した。岩壁の落ち口にボルトを打ち、ここからロープ2本分懸垂下降すると、あっけなくエリアの取付に到着した。劇的なアプローチの改善に、僕たちは大満足であった。だが、その日も夕暮れ近くまで作業し、さて帰ろう、という段になって問題が発生した。佐藤にとって、100メートルの空中ユマーリングは未経験。そもそも慣れないユマーリングに加え、背中のカメラ機材が邪魔となり、待てど暮らせど進まない。頂上のリップでギシギシとロープがきしむ音に、クライミングに慣れた他の3人も生きた心

地がしない。結局、４人が無事に頂上にたどり着いた時には、ユマーリングを始めてから３時間が経過していた。冷静に考えて、このアプローチを毎日こなすのは現実的ではなかった。

「明日からはおとなしくいつもの道から車でアクセスしよう」

だけど、あのレストの一日が無に帰したとは思わない。目当てのバットレスの頂上にたどり着くまでの時間は、まさに宝探しの気分だった。キャニオンの底は荒涼殺伐とした景色だけど、上は別世界。緑豊かで、まるで日本庭園かと思うような心癒される場所も何か所か見つけた。この地をより深く知るという意味では大切な作業だった。

「このアクセスは使えないことが分かったのが成果だ」、とは加藤の弁。いま思い返しても、非常に思い出深い一日であった。

とは言え、僕たちの本当の目的はクライミング。月が変わり、冬が一段と深くなった。と同時に、滞在も残り少なくなってきた。プロジェクトに進展はない。そろそろ成果が欲しい頃だった（この読み物的にも）。

スポーツクライミングの変遷

スポーツクライミングは、自然の岩場での冒険的な挑戦にそのルーツを持ち、身体的な可能性を追求していく過程で、「競技としてのスポーツクライミング」が確立された。その歴史は新しく、1960年代に遡る。この時代にアメリカではクリーン・クライミングが提唱され、やがて1970年代に入るとハード・フリークライミングの波が起こってきた。そのブームは日本にも伝播し、既存の人工ルートのフリー化が行われるようになっていった。

1979（昭和54）年、ヨセミテを訪れた戸田直樹は、当地で受けたフリークライミングの理念・技術を日本に持ち帰った。翌1980（昭和55）年５月、戸田らは谷川岳一ノ倉沢コップ状正面壁雲表ルートをフリー化。これを契機にフリークライミングのブームが始まった。1982（昭和57）年８月には、不可能視されていた一ノ倉沢衝立岩正面壁も池田功らによってフリー化される。

一方では、旧ソ連邦を中心に誰が一番早く登れるかを競うスピードの岩登り競技会が行われていた。1976（昭和51）年10月、旧ソ連西カフカスで旧ソ連アルピニズム連盟主催の国際岩登り競技会が行われ、日本から山学同志会の今野和義と大宮求が参加。結果は旧ソ連選手の圧勝に終わったが、この大会に触発され、日本でも岩登り競技会が行われるようになる。

1977（昭和52）年10月に宝剣岳天狗岩で本協会主催の「第１回登攀技術研究会」と称した岩登り競技会が開催された。其の後、1988（昭和63）年11月には「第２回ジャパンカップ」が静岡市のツイン・コアビルの外壁に人口ホールドを設置して開催された。これが人口ホールドでの国内初のスポーツクライミング競技大会となった。

1989（平成元）年からワールドカップ・シリーズがスタート。全７戦のポイント合計による初代チャンピオンは、サイモン・ナディン（英）とナネット・レイボー（仏）であった。

1991（平成３）年にはアジアで初めてのワールドカップ大会が東京・代々木第２体育館の屋外で開催された。その中で平山ユージは飛び抜けた実力を発揮して優勝。その後、平山は1998（平成10）年と2000（平成12）年にワールドカップ・シリーズを制覇して２度の年間チャンピオンに輝く。

宝剣岳天狗岩での第１回岩登り競技会

静岡市ツイン・コアビルでの第２回ジャパンカップ

スポーツクライミングの世界選手権は、1991（平成３）年から開催され、翌92（平成４）には世界ユース選手権も開催されるようになった。

其の後、ワールドカップも徐々に拡大し、参加国や大会数も増え、1999（平成11）年からはボルダリングも加わり、より充実したシリーズとなった。

一方、90年代になると大都市周辺では室内に人工壁を設けたクライミング・ジムが相次いで誕生。フリークライミングは、クライミングの本筋を冒険からスポーツへ、大衆化へと移行した。

日本では、2008（平成20）年の第63回大分国体から山岳競技は、リードとボルダリングのスポーツクライミングに特化した競技となった。

こうした中、2007（平成19）年に国際山岳連盟（ＵＩＡＡ）で10数年にわたりワールドカップを主催してきた国際クライミング評議会（ＩＣＣ）が国際スポーツクライミング連盟（ＩＦＳＣ）として分派独立し、2010（平成22）年２月に国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）加盟となる。

2014（平成26）年12月にモナコで開催された第127回ＩＯＣ総会で、トーマス・バッハＩＯＣ会長は、中長期改革「オリンピック・アジェンダ2020　20＋20提言」を提案した。アジェンダでは、現在の夏季五輪競技種目28の上限を撤廃して、開催都市のオリンピック組織委員会が一つまたは複数の競技種目を追加提案することができる、とされた。

これを受けて2015（平成27）年５月、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会（以下「組織委員会」）では、33の非五輪競技団体に応募用紙を発送した。そして同年６月、組織委員会では、応募のあった26競技団体から８競技団体に絞りこんだ。

組織委員会の追加種目検討会議では、３つの主要原則「若者へのアピール」、「国民機運の向上」、「公正で開かれた選考プロセス」を重視し、そのうえで計画やコストなどについて考査した。スポーツクライミングは「アーバンスポーツの代表格。これまでの五輪競技にはなかった垂直方向に登る競技がユニークな新しい価値をもたらす」として評価された。最終的に５競技18種目、選手数474人がＩＯＣへの提案となった。これを受けてＩＯＣでは６月の理事会で、組織委員会の提案を承認し、2016（平成28）年８月３日（日本時間４日）、ブラジルのリオデジャネイロで開催された第129回ＩＯＣ総会で、一括承認された。

正式決定されたスポーツクライミング競技は、メダルの数（種目）は、男子・女子各１の計２種目。選手数は、男子・女子各20人の計40人。競技の内容は、リード、ボルダリング、スピードの３種目複合で行われる。

東京で開催されたアジア初のＷ杯

＊

オリンピック競技種目に入らないスポーツの檜舞台は、２年に１度開催される世界選手権だ。スポーツクライミングの世界選手権は、2019（令和元）年までに15回開催されてきた。（別表参照）

1997（平成９）年大会あたりまではフランス勢が圧倒的に強く、男子ではフランソワ・ルグランが91年、93年、95年と３度制覇し、97年はフランソワ・プティが優勝。女子ではイザベル・パティシエやリヴ・サンゾらが中心選手となって活躍。

表彰台のほとんどを欧米勢が占める中で、アジア勢として孤軍奮闘した平山ユージは、91年２位、93年３位、99年２位とメダルを獲得。

2005（平成17）年になると野口啓代が台頭してくる。05年のミュンヘン大会で３位に入ってから15年もの長きに亙って活躍。2019（令和元）年八王子大会のコンバインドでは２位となり、東京2020オリンピックの出場内定を決めた。　（記　尾形好雄）

訃報　Luce Douady 急逝

スポーツクライミングのフランス代表選手、ルース・ドゥアディ（Luce Douady）が６月14日にフランス南東部のグルノーブル近郊の岩場で転落死した。享年16。同選手は、昨年、イタリア・アルコで開催された世界ユース選手権の女子ユースＡ部門のボルダリングで優勝し、リードで３位の成績を収め、パリ2024オリンピックの期待の星であった。謹んで衷心よりご冥福をお祈りします。

世界選手権（1991年～2019年）

種　別	氏 名（○数字は順位）
UIAA1991年大会（10月1日～２日、フランクフルト）	
L女子	①SUSI GOOD（SUI）②ISADELLE PATISSIER(FRA) ③ROBYN ERBESFIELD(USA)
S女子	①ISABELLE DORSIMOND(BEL) ②AGNES BRARD(FRA) ③VENERA CHERESHNEVA(RUS)
L男子	①FRANCOIS LEGRAND（FRA）**②平山ユージ** ③GUIDO KOSTERMEYER(GER)
S男子	①HANS FLORINE(USA) ②JACKY GODOFFE(FRA) ③KAIRAT RAKHMETOV(KAZ)
UIAA1993年大会（4月29日～30日、インスブルック）	
L女子	①SUSI GOOD（SUI）②ROBYN ERBESFIELD(USA) ③ISABELLE PATISSIER(FRA)
S女子	①OLGA BIBIK(RUS) ②ISABELLE DORSIMOND(BEL) ③RENATA PISZCZEK(POL)
L男子	①FRANCOIS LEGRAND（FRA）②STEFAN GLOWACZ(GER) **③平山ユージ**
S男子	①VLADIMIR NFTSVETAEV-DOLGALEV(RUS) ②SERIK KAZBEKOV(UKR) ③YEVGEN KRYVOSHEYTSEV(UKR)
UIAA1995年大会（5月5日～６日、ジュネーブ）	
L女子	①ROBYN ERBESFIELD(USA) ②LAVRENCE GUYON(FRA) ③LIV SANSOZ(FRA)
S女子	①NATALIE RICHER(FRA) ②CECILE AVEZOU(FRA) ③RENATA PISZCZEK(POL)
L男子	①FRANCOIS LEGRAND（FRA）②ARNAVD PETIT(FRA) ③ELIE CHEVIEUX(SUI)
S男子	①ANDREY VEDENMEER(UKR) ②MILAN BENIAN(CZE) ③VLADIMIR NETSVETAEV-DOLGALEV(RUS)
UIAA1997年大会（1月31日～２月1日、パリ）	
L女子	①LIV SANSOZ(FRA) ②MURIEL SARKANY(BEL) ③MARIETTA UHDEN(GER)
S女子	①TATIANA RUYGA(RUS) ②IRINA ZAYTSEVA(RUS) ③OLGA BIBIK(RUS)
L男子	①FRANCOIS PETIT（FRA）②CHRIS SHARMA(USA) ③FRANCOIS LEGRAND（FRA）
S男子	①DANIEL ANDRADA JIMENEZ(ESP) ②YEVGEN KRYVOSHEYTSEV(UKR) ③DMITRII BYCHKOV(RUS)
UIAA1999年大会（12月２日～３日、バーミンガム）	
L女子	①LIV SANSOZ(FRA) ②MURIEL SARKANY(BEL) ③ELENA DVICHINNIKOVA(USA)
S女子	①OLGA ZAKHARVA(UKR) ②OLENA RYEPKO(UKR) ③NATALIA NOVIKOVA(RUS)
L男子	①BERNARDINO LAGNI(ITA) **②平山ユージ** ③MAKSYM PETRENKO(UKR)
S男子	①VLADIMIR ZAKHAROV(UKR) ②VLADIMIR NETSVETAEV-DOLGALEV(RUS) ③ALEXEI GADEEV(RUS)
UIAA2001年大会（9月5日～８日、ヴィンタートゥール）	
L女子	①MARTINA CUFAR(SLO) ②MURIEL SARKANY(BEL) ③CHLOE MINORET(FRS)
B女子	①MYRIAN MOTTEAU(FRA) ②SANDRINE LEVET(FRA) ③MATALIYA PERLOVA(UKR)
S女子	①OLENA RYEPKO(UKR) ②MAYYA PIRATINSKAYA(RUS) ③SVETLANA SUTKINA(RUS)
L男子	①GEROME POUVREAU(FRA) ②TOMAS MRAZEK(CZE) ③FRNCOIS PETIT(FRA)
B男子	①MAURO CALIBANI(ITA) ②FREDERIC TUSCAN(FRA) ③CHRISTIAN CORE(ITA)
S男子	①MAKSYM STYENKOVYY(UKR) ②VLADIMIR ZAKHAROV(UKR) ③TOMASZ OLEKSY(POL)
UIAA2003年大会（7月9日～13日、シャモニー）	
L女子	①MURIEL SARKANY(BEL) ②EMILIE POUGET(FRA) ③SANDRINE LEVET(FRA)
B女子	①SANDRINE LEVET(FRA) ②NATALIYA PERLOVA(UKR) ③FANNY ROGEAUX(FRA)
S女子	①OLENA RYEPKO(UKR) ②TATIANA ROYGA(UKR) ③VALENTINA YURINA(RUS)

L男子	①TOMAS MRAZEK(CZE) ②PATXI USOBIAGA LAKUNZA(ESP) ③DAVID CAUDE(FRA)
B男子	①CHRISTIAN CORE(ITA) ②JEROME MEYER(FRA) ③TOMASZ OLEKSY(POL)
S男子	①MAKSYM STYEKOVYY(UKR) ②TOMASZ OLEKSY(POL) ③ALEXANDER PESHEKHONOV(RUS)
UIAA2005年大会（7月1日～5日、ミュンヘン）	
L女子	①ANGELA EITER(AUT) ②EMILY HARRINGTON(USA) **③野口啓代**
B女子	①OLGA SHALAGINA(UKR) ②YULIA ABRAMCHUK(RUS) ③VERA KOTASOVA KOSTRUHOVA(CZE)
S女子	①OLENA RYEPKO(UKR) ②VALENTINA YURINA(RUS) ③EDYTA ROPEK(POL)
L男子	①TOMAS MRAZEK(CZE) ②PATXI USOBIAGA LAKUNZA(ESP) ③ALEXANDRE CHABOT(FRA)
B男子	①SALAVAT RAKHMETOV(RUS) ②KILIAN FISCHHUBER(AUT) ③GEROME POUVREAU(FRA)
S男子	①EVGENII VAITSEKHOVSKII(RUS) ②MAKSYM STYENKOVYY(UKR) ③SERGEI SINITCYN(RUS)
UIAA2007年大会（9月17日～23日、アビレス）	
L女子	①ANGELA EITER(AUT) ②MORIEL SARKANY(BEL) ③MAJA VIDMAR(SLO)
B女子	①ANA STOHR(AUT) **②野口啓代** ③OLGA BIBIK(RUS)
S女子	①TATIANA RUYGA(RUS) ②EDYTA ROPEK ③VALENTINA YURINA(RUS)
L男子	①RAMON JOLIAN PUIGBLANQUE(ESP) ②PATXI USOBIAGA LAKUNZA(ESP) ③CEDRIC LACHT(SUI)
B男子	①DMITRII SHRAFUTDINOV(RUS) ②MARTIN STRANIK(CZE) ③CEDRIC LACHAT(SUI)
S男子	①QIXIN ZHONG(CHN) ②MANUEL ESCOBAR(VEN) ③SERGEI SINITCYN(RUS)
IFSC2009年大会（6月30日～7月5日、青海省）	
L女子	①JOHANNA ERNST(AUT) ②JAIN KIM(KOR) ③MAJA VIDMAR(SLO) **④小林由佳 ⑧野口啓代**
B女子	①YULIA ABRAMCHUK(RUS) ②OLGA SHALAGINA(UKR) ③ANNA STOHR(AUT) **⑤野口啓代**
S女子	①CUILIAN HE(CHN) ②CUIFANG HE(CHN) ③CHUNHUA LI(CHN)
L男子	①PATXI USOBIAGA LAKUNZA(ESP) ②ADAM ONDORA(CZE) ③DAVID LAMA(AUT) **④安間佐千 ⑧新田龍海**
B男子	①ALEKSEI RUBTSOV(RUS) ②RUSTAM GELMANOV(RUS) ③DAVID BARRANS(GBR)
S男子	①QIXIN ZHONG(CHN) ②SERGEY ABORAKHMANOV(RUS) ③NING ZHANG(CHN)
IFSC2012年大会（9月12日～16日、パリ）	
L女子	①ANGELA EITER(AUT) ②JAIB KIM(KOR) ③JOHANNA ERNST(AUT) **④小田桃花 ⑫小林由佳**
B女子	①MELANIE SANDOZ(FRA) ②OLGA IAKOVLEVA(RUS) ③ANNA STOHR(AUT) **⑥野口啓代**
S女子	①YULIYA LEVOCHKINA(RUS) ②IULIIA KAPLINA(RUS) ③NATALIA TITOVA(RUS)
L男子	①JAKOB SCHUBERT(AUT) ②SEAN MCCOLL(CAN) ③ADAM ONDRA(CZE) **⑦安間佐千 ⑩松島暁人 ㉘樋口裕登**
B男子	①DMITRII SHARAFUTDINOV(RUS) ②KILIAN FISCHHUBER(AUT) ③RUSTAM GELMANOV(RUS) **⑥杉本　怜 ⑮堀　　創 ㉗新田龍海**
S男子	①QIXIN ZHONG(CHN) ②LIBOR HROZA(CZE) ③DMITRII TIMOFEEV(RUS)
IFSC2014年大会（8月21日～23日、ミュンヘン）	
B女子	①JOLIANE WURM(GER) ②ALEX PUCCIO(USA) **③野口啓代 ⑮野中生萌**
B男子	①ADAM ONDRA(CZE) ②JERNEI KRUDER(SLO) ③JAN HOJER(GER) **⑥堀　創 ⑩楢﨑智亜 ⑱杉本　怜 ㉗藤井　快**
IFSC2014年大会（9月8日～14日、ヒホン）	
L女子	①JAIN KIM(KOR) ②MINA MARKOVIC(SLO) ③MAGDALENA ROCK(AUT) **⑦小林由佳 ⑨野口啓代**

S女子	①ALINA GAIDAMAKINA(RUS)②KLAUDIA BUCZEK(POL)③ALEKSANDA MIROSLAW(POL)
L男子	①ADAM ONDRA(CZE)　②RAMON JULIAN PUIGBLANQUE(ESP) **③安間佐千**
S男子	①DANYIL BOLDYREV(UKR)②STANISLAV KOKORIN(RUS)③REZA ALIPOURSHENAZANDIFAR(IRI)
IFSC2016年大会(9月13日～18日、パリ)	
L女子	①JANJA GARNBRET(SLO) ②ANAK VERHOEVEN(BEL) ③MINA MARKOVIC(SLO) **⑬小林由佳**
B女子	①PETRA KLINGLER(SUI) **②野中生萌 ③野口啓代**
S女子	①ANNA TSYGANOVA(RUS) ②ANOUCK JAUBERT(FRA) ③IULIIA KAPLINA(RUS)
L男子	①ADAM ONDRA(CZE)　②JAKOB SCHUBERT(AUT) ③GAUTIER SUPPER(FRA) **⑧是永敬一郎** **㉔樋口純裕 ㉕島谷尚季 ㉙楢﨑明智**
B男子	**①楢﨑智亜** ②ADAM ONDRA(CZE) ③MANUEL CORNU(FRA) **⑥堀　創 ⑧高田知尭**
S男子	①MARCIN DZIENSKI(POL) ②REZA ALIPOURSHENAZANDIFAR(IRI) ③ALEKSANDR SHIKOV(RUS)
IFSC2018年大会(9月6日～16日、インスブルック)	
L女子	①JESSICA PILZ(AUT) ②JANJA GARNBRET(SLO) ③JAIN KIM(KOR) **④小武芽生⑧野口啓代** **⑯野中生萌**
B女子	①JANJA GARNBRET(SLO) **②野口啓代** ③STASA GEIO(SRB) **⑤野中生萌**
S女子	①ALEKSANDRA MIROSLAW(POL ②ANNA BROZEK(POL) ③MARIIA KRASAVINA(RUS) **㉕野口啓代** **㊺野中生萌**
C女子	①JANJA GARNBRET(SLO) ②SOL SA(KOR) ③JESSICA PILZ **④野口啓代 ⑤野中生萌**
L男子	①JAKOB SCHUBERT(AUT) ②ADAM ONDRA(CZE) ③ALEXANDER MEGOS(GER) **④楢﨑明智** **⑥高田知尭 ⑩原田　海 ⑬楢﨑智亜 ⑰田中修太**
B男子	**①原田　海** ②JONGWON CHON(KOR) ③GREGOR VEZONIK(SLO) **④渡部圭太⑤藤井　快**
S男子	①REZA ALIPOURSHENAZANDIFAR(IRI) ②BASSA MAWEM(FRA) ③STANISLAV KOKOTIN(RUS) **㉑楢﨑智亜 ㊱藤井　快**
C男子	①JAKOB SCHUBERT(AUT) ②ADAM ONDRA(CZE) ③JAN HOJER(GER) **④原田 海 ⑤楢﨑智亜** **⑥藤井　快**
IFSC2019年大会(8月11日～21日、東京都八王子市)	
L女子	①JANJA GARNBRET (SLO) ②KRAMPL MIA(SLO) **③森　秋彩** ④SEO CHAEHYUN(KOR) **⑤野口啓代** **⑪小武芽生 ⑭伊藤ふたば**
B女子	①JANJA GARNBRET (SLO) **②野口啓代** ③SHAUNA COXSEY(GBR) ④KAZBEKOVA LEVGENIIA(UKR) **⑤野中生萌　⑥倉菜々子 ⑦伊藤ふたば**
S女子	①MIROSLAW ALEKSANDRA(POL) ②NIU DI(CHN) ③JAUBERT ANOUCK(FRA) **㉕野中生萌** **㉗伊藤ふたば ㉞野口啓代 ㊹倉菜々子**
C女子	①JANJA GARNBRET(AUT) **②野口啓代** ③SHAUNA COXSEY(GBR) **⑤野中生萌 ⑥森　秋彩** **⑦伊藤ふたば**
L男子	①ADAM ONDRA (CZE) ②MEGOS ALEXANDER(GER) ③JAKOB SCHUBERT (AUT) **④楢﨑智亜** **⑦原田　海　⑫楢﨑明智 ㉒西田秀聖**
B男子	①楢﨑智亜 ②JAKOB SCHUBERT (AUT) ③FLOHE YANNICK(GER) **④藤井　快 ⑤土肥圭太** **⑦杉本　怜 ⑨原田　海**
S男子	①FOSSALI LUDOVICO(ITA) ②KRIZ JAN(CZE) ③KOKORIN STANISLAV(RUS) **㉒楢﨑智亜** **㉙藤井　快 ㉜原田　海 ㊳楢﨑明智 ㊴土肥圭太**
C男子	①楢﨑智亜 ②JAKOB SCHUBERT(AUT) ③RISHAT KHAIBULLIN(KAZ) **④原田　海** **⑤楢﨑明智 ⑥藤井　快**

※種別の左表記は、B：ボルダリング、L：リード、S：スピード、C：コンバインド

新刊図書紹介

『白嶺の金剛夜叉　山岳写真家　白籏史朗』

井ノ部康之　著

昨年11月30日に逝去された、日本を代表する山岳写真家・白籏史朗氏の生涯を井ノ部康之が描いた。『山と渓谷』2002年１月号から12月号まで掲載されたスーパー・ロングインタビュー「山岳写真家　白籏史朗　語りつくす」をもとに、丹念な追加取材をして１冊に纏め上げた評伝。岡田紅葉の内弟子として修業に明け暮れた時代から、プロの山岳写真家として独立を果たし、国内の主要山岳のみならず、ネパール・ヒマラヤ、カラコルム、アルプスなど海外の山へと活動の場を広げ、世界的に名声が知られるようになるまでの過程を丁寧に掘り下げて紹介している。山岳写真家必読の書。

2020年５月25日発行　㈱山と渓谷社　四六版328頁
本体2,000円＋税

『萩原編集長　危機一髪！今だから話せる遭難未遂と教訓』

萩原浩司　著

どんなベテランであっても、どんなに慎重な計画を立てたとしても、山の遭難をゼロにすることはできない。自然の中に潜む危険は、ときに人間の想像をはるかに越えることがあるからだ。山岳雑誌『山と渓谷』や『ROCK＆SNOW』の編集長をつとめ、ＮＨＫの登山番組「実践！にっぽん百名山」でレギュラー解説者をつとめた筆者が、50年の登山歴のなかから「あれは本当にヤバかった」という経験をピックアップ。「命を落としかけたシリアスな体験」から「笑い話で済んだささやかな失敗談」まで、18の危機体験談を教訓とともに紹介する。

2020年７月１日発行　㈱山と渓谷社　新書版352頁
本体1,000円＋税

事業中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大に伴い以下の事業が中止となりましたので、お知らせします。

令和２年度全国山岳遭難対策協議会
７月上旬　文部科学省講堂
令和２年度レスキュー講習会（無雪期）
９月11日～13日　国立登山研修所

JMSCA
令和２年度
第２回理事会報告

日　時　令和２年６月10日㈬
14：10～17：50
場　所　ＪＭＳＣＡ会議室を中心にＷｅｂ会議
出席者：八木原会長、亀山、平山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡（途中参加）、村上、山口、水村（報告事項から出席）、前田、六角、唐木、古賀、山本、古林、安藤各理事、小日向理事（議案第１号時退出、特別利害関係者）、中畠、古屋各監事
同席者：Field-R法律事務所　杉山弁護士
ガバナンス委員会恒石委員長、和田委員

１．開　会

Ｗｅｂ会議での理事会開催について会長挨拶があり、事務局長から理事20名（３名途中から参加）、監事２名の出席が確認されてから、事務局長がホストを務めて議事に入った。

２．議　題

⑴議案第１号　ＣＡＳ提訴の現状について
説明と質問
杉山弁護士よりこれまでの経過説明と今後の展開について説明。審問での権限授権について承認。
⑵議案第２号　議事録の承認について
2020年度第１回理事会議事録の承認について（事前送付済）
全員一致で承認された。
⑶議案第３号　令和元（2019）年度事業報告（案）について
一部訂正があり、次回に改めて提案。
⑷議案第４号　規程類の改定について
①組織管理運営規程：一部訂正で提案内容については全員一致で承認。規程上の語彙の定義についてガバナンス委員会で検討。
②常務理事会規程：全員一致で承認。
③理事会規程：一部訂正で提案内容については全員一致で承認。
⑸議案第５号　正会員の承認について
福井岳連の前正会員・牧野治生氏の退会と新正会員・山本利幸氏の入会が全員一致で承認。
⑹議案第６号　定時総会について
常務理事会から８月２日㈰の定時総会はＷｅｂ会議で行う提案があり、承認された。常務理事は、一堂に会して質疑に応じる。
⑺議案第７号　ＬＪＣの開催について
コロナ禍最初の国内大会として延期していた前年度のＬＪＣを８月に盛岡市で開催する提案があり、承認。
予算案を早急に予算委員会、財務委員会と詰め、業務委託契約や見積もりを検討しながら進めることになった。
⑻議案第８号 登山再開に向けてのガイドラインについて
登山医科学委員会からガイドラインの提案があり、最終的に登山部会で確認して公表することが承認された。

３．報　告

⑴報告第１号 2021年度スポーツクライミングWorld Cup開催について
ＩＦＳＣからＪＭＳＣＡ主催でない日本開催を検討してほしいとのこと。６月末まで返答。
⑵報告第２号　2020年度５月・月次決算報告

相良理事から資料に基づいて報告があった。令和元年度貸借対照表を概算でもよいので報告して頂きたい、との要望あり。

⑶報告第３号　スポーツ団体ガバナンスコードについて
コロナ禍に伴う適合性審査に関する規則の決定とスケジュール変更について報告があつた。

⑷報告第４号　第１次補正予算案について
補正予算案の概要説明があり、７月理事会に諮る。監事から監査までに赤字返済の中長期計画の提出と補正予算の補正した事業・補正額等の説明資料を添付することの要望があった。

⑸報告第５号　加盟団体の法人化について
４月から埼玉県山岳・スポーツクライミング協会が一般社団法人となった。

⑹報告第６号　専門委員会常任委員について
以下承認の報告があった。
①登山指導委員会
主管理事：蛭田伸一、担当理事：古賀英年委員長：蛭田伸一、副委員長：野村善弥、常任委員：６名、廣川厚子、工藤誠志、本郷利夫、平野直子、小畑和人、岡谷良信
②ＳＣ指導委員会
主管理事：六角智之、委員長：藤江理枝、副委員長：篠崎善信、常任委員：８名、廣川厚子、有枝樹雄、田中星司、西村良信、早石利枝、奥井健吾、吉田貴子、新井牧子

⑺報告第７号　山小屋エイド基金について
資料に基づいて、本協会も団体として賛同することが常務理事会で承認された。

⑻報告第８号 収支相償における公益認定等委員会の見解について
ＪＯＣから内閣府に問い合わせた回答として、赤字返済については、中長期で収支が均衡する等の具体的な改善計画を法人として適切に説明すれば、公益法人３基準の抵触も斟酌されるとの事。

⑼その他
①第75回鹿児島国体に関しての情報について
現時点では、鹿児島県知事が今年度中の開催は難しいと発言をした新聞報道がある。
②委員会の常任委員、専門委員について
現在は、各委員会とも岳連へ推薦依頼は行っていない。
③山岳保険資料について
山岳保険の知見を深めて貰いたい。
④持続可給付金についての申請について
前年同月比で収入が少ない月について調査した。該当があり、申請する予定。
⑤令和元年度山岳共済会2019年度事業報告・決算報告を監事に送付。
⑥山岳スキー日本選手権の件
４月に開催できなかった山岳スキー日本選手権を来年３月に開催できないか検討中。

４．役員派遣について
（６月11日～７月14日）
⑴東京2020ＮＦ協議会　６月16日㈫　尾形専務理事
⑵令和元年度業務・会計監査　７月８日㈬～９日㈭　於：ＪＭＳＣＡ事務局　中畠・古屋監事、尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事
⑶はだの丹沢クライミングパークオープンセレモニー　６月21日㈰
於：はだの丹沢クライミングパーク　八木原会長、水村理事

５．各専門委員会報告
５－１．遭難対策委員会
５月20日㈬19：00～21：10 スカイプ会議　参加者18名
ア）今年度の活動および予算変更について
⑴全国遭難対策委員長会議について
①2020年は中止とする。但し、全国委員長にはアンケートを配布、
②2021年の全国遭対策委員長会議は、大阪で開催予定。
2021年６月26日㈯、27日㈰　大阪府サニーストーンホテル予約。
⑵全国山岳遭難対策協議会について
７月６日前後開催の予定で調整していたが、現在スポーツ庁はじめ幹事会にて検討中
⑶山岳レスキュー講習会(無雪期）について
９月11㈮～13日㈰開催予定の山岳レスキュー講習会（無雪期）については、次回遭難対策委員会議で再度検討。
⑷2020年度活動計画見直しに伴う予算の見直しについて
全国委員長会議費1,400,000円を０に、ＵＩＡＡ出張費700,000円を半額の350,000円に減額し計1,750,000円を減額する。
イ）講習会開催要項の見直し
⑴無雪期および積雪期の開催要項について見直しを図る。（担当：中丸事務局長、町田雅美委員）
⑵講習会内容および募集定員について見直し
無雪期の講習会内容の見直しおよび各クラスの募集定員の見直し（担当：石田副委員長）前回主任講師の井上、松本光顕、松本善行、山新各委員は、石田副委員長へ見解を連絡。
ウ）減遭難活動
⑴取り組み方法について
・啓発活動
コロナの影響による登山自粛要請が解除されるまでは、啓発活動等はできない。
・モデルケースの山を決めて取り組む場合省庁、行政を巻き込んで行わなければ実現は難しい。
・東京都岳連内で環境省等への面識がないか確認する。（槙委員）
・山梨県警で県内の登山道整備を行うとの情報が有り、内容の聞き取り（安藤委員）
・登山自粛要請中のため、この時期に大阪府内の消防署等に名刺を配りに回りたい。（青山委員）
・コロナ対策で忙しい今の時期に消防署等を尋ねるのは如何なものか。（石田副委員長）
⑵モデルケース候補の山
関西：六甲山
関東：奥多摩や丹沢が挙げられるが、東京都および神奈川県は、現在「緊急事態措置中」である。
⑶今後の活動
関東４県（東京、神奈川、埼玉、千葉）の緊急事態措置解除の時期は不透明のため、まずは関西の活動をどうするか計画を策定中。

６．　会務・役員派遣
（４月９日～６月９日）
⑴ＪＯＣ夏季五輪競技団体Ｗｅｂ会議
４月９日㈭　尾形専務理事
⑵ＩＦＳＣ　Ｗｅｂ会議　４月14日㈫
平山・丸副会長、水村理事
⑶緊急事態宣言を受けて山岳４団体登山自粛声明文を発出
⑷ＡＣＣ Ｗｅｂ会議　４月22日㈫
平山副会長、水村理事
⑸『JMSCA Magazine』編集会議（Ｗｅｂ）
４月23日㈭　尾形専務理事、合田常務理事
⑹令和元年度収支決算確認（公認会計士）
４月30日㈭～５月１日㈮

寄贈図書

寄贈本	㈱山と渓谷社	「白嶺の金剛 夜叉 山岳写真家 白籏史朗」井ノ部 康之著
	鹿野勝彦	鹿野勝彦著「ヒマラヤ縦走ー『鉄の時代』のヒマラヤ登山」
	㈱山と渓谷社	萩原浩司著「萩原編集長危機一髪！」
月　報	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第636号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第188号
	(公財) 日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.49
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」20207月 No.545
	日本勤労者山岳連盟	「労山ニュース」第38号
	東京野歩路会	「山嶺」№1084 Vol.97
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.493
	(公社) 日本山岳会	「山」６月号 No.901
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.237
	日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT－J NEWS」No.118
広報誌	(公財) 日本自転車競技連盟	「Cyclism echo」No.231
	(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.506
	(公財) スポーツ安全協会 埼玉支部	「スポーツ埼玉」Vol.288
	(公財) 日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレイニュース」vol.117
	㈱ソル・メディア	「CLIMBERS」＃016
雑　誌	㈱山と渓谷社	「ROCK & SNOW」2020 Jun 088
	㈱ネイチャエンタープライズ	「岳人」７月号 No.875
	㈱山と渓谷社	「山と渓谷」７月号 No.1024
	㈱日本運動具新報社	「スポーツ産業新聞」第2291号、第2292号、第2293号

(7) ＩＦＳＣ Ｗｅｂ会議　５月７日㈭
平山・丸副会長、水村理事
(8)常務理事会・理事会（Ｗｅｂ会議）
５月 14 日㈭　八木原会長他
(9)登山部会（Ｗｅｂ会議）　５月 14 日㈭水島常務理事他
(10) ＳＣ部会（Ｗｅｂ会議）　５月 20 日㈬
合田常務理事他
(11)緊急事態宣言全面解除を受けて山岳４団体登山自粛解除声明文を発出　５月 26 日㈫
(12)オンラインＮＦ協議会　６月５日㈮　尾形専務理事

60周年募金協力者ご芳名

（2020 年 6 月 30 日現在、敬称略）

12 口：匿名、10 口：平沢健治、神奈川県山岳連盟、6 口：小宮山稔

（総額：1,063 口 5,315,000 円）

＊

創立 60 周年記念事業募金のご協力をお願いします。6,000 円以上の募金の場合、税額控除証明書を発行いたします。

みずほ銀行　渋谷支店　普通口座　3382501
口座名：
(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会
郵便振替　口座記号番号 00110-5-546693
加入者名：
(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会

表紙のことば

リモＩ峰（7,385 m）の初登頂は、南壁のど真ん中に食い入る大クーロワールの左手に南壁の中央部を縫うようなルート見いだせた時に手中にしたと思った。

1988 年 7 月 27 日、アイベックス・コル（6,200 m）から高度差 800 m の南壁を抜けきり、南西稜の 7,000 m 地点に飛び出たのが 16 時。それから 4 時間半かかって氷を削り、ようやくテントを設営したが、テントの半分は空中に飛び出たままだった。この空中の止り木のようなテントで、日印双方の 4 人は、座ったままアタックの朝を迎えた。眼下に見えるのはノース・テロン氷河。

（写真撮影者　尾形好雄）

編集後記

梅雨も後半に入り今年も前線が活発で、九州地方の大雨洪水被害が毎日報道され目が覆いたくなる。被災された方々には謹んでお悔やみ、お見舞い申し上げます。コロナ禍後登山活動の再開が梅雨に入り自粛で鈍った体にはちょうどいいのでは。一方協会や加盟団体においての講習会・研修会開催は、主催者になるので感染拡大防止策が万全でないと難しく手探り状態だ。「3 密」、検温、手指消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンシングと自主規制が必要だ。リモート開催も考えられるが伝達講習がメインなので意味が無い。一刻も早くワクチンと治療薬の開発が待たれる。　（広報担当　水島彰治）

トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会
〒141-0031
品川区西五反田 6-3-23-205
☎03-3492-0355　FAX 03-6451-3767

登山月報　第 616 号
定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　令和 2 年 7 月15日
発行者　東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03－5843－1631
ＦＡＸ　03－5843－1635

山岳雑誌　岳人（がくじん）
山と人、時代をつなぐ「岳人」

8月号 発売中
【特集】ふるさとの山
★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！
毎月15日発売　価格880円(+税)

年間購読がおすすめです。
購読割引　送料無料　Tシャツセット
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。
通常価格12冊　~~10,560円(税抜)~~ 11,616円(税込)
→ 年間購読12冊＋Tシャツ　9,680円(税抜)　10,648円(税込)

「岳人」年間購読＋岳人Tシャツセット
期間限定キャンペーン
岳人の年間購読を【新規お申し込み】または【ご継続】いただくと、「岳人Tシャツ」クーポンをセットでお届け。
キャンペーン期間（お申し込み日）
2019年10/15(火)～2020年10/14(水)
（2019年12月号から2020年11月号までの年間購読開始が対象となります）
※購読開始号に同封されているクーポンを全国のモンベルストア店頭でTシャツと交換させていただきます。ご来店いただけないお客さまには発送も可能です。

年間購読のお申し込みはこちらから！
https://www.gakujin.jp/
全国のモンベルストアでも受付中！
お問い合わせ　モンベルポスト
フリーコール 0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP 電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

JMSCA

登山者のマナー
山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- □ 傷害死亡・後遺障害
- □ 遭難捜索費用
- □ 救援者費用
- □ 傷害入院費用
- □ 傷害通院費用
- □ 傷害手術費用
- □ 個人賠償責任

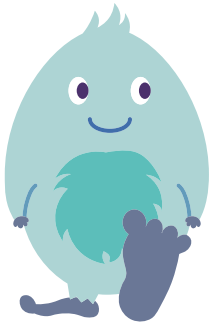
日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00（祝日除く）

携帯からも資料請求ができます。
https://sangakukyousai.com



WEBからもお申込みいただけます